

# 長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2023年第43週 2023年10月23日（月）～ 2023年10月29日（日） 2023年11月2日作成

## ☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

### （1）インフルエンザ

第43週の報告数は1349人で、前週より433人多く、定点当たりの報告数は19.27であった。

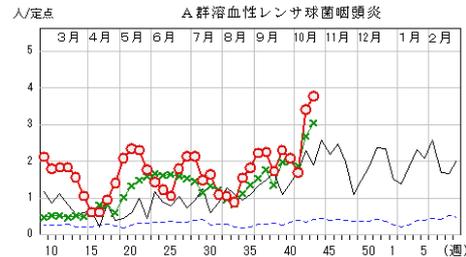
年齢別では、10～14歳（438人）、7歳（112人）、9歳（88人）の順に多かった。定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（48.55）、上五島保健所（26.33）、県北保健所（22.25）であった。



### （2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第43週の報告数は166人で、前週より16人多く、定点当たりの報告数は3.77であった。

年齢別では、10～14歳（33人）、7歳（22人）、8歳（18人）の順に多かった。定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（13.00）、県北保健所（9.67）、西彼保健所（8.50）であった。



### （3）咽頭結膜熱

第43週の報告数は127人で、前週より13人多く、定点当たりの報告数は2.89であった。

年齢別では、2歳（32人）、3歳（23人）、5歳（18人）の順に多かった。定点当たり報告数の多い保健所は、西彼保健所（11.50）、県央保健所（4.14）、長崎市保健所（3.60）であった。



○ 当年(長崎県)      前年(長崎県)  
× 当年(全国)      前年(全国)

## ☆上位3疾患の概要

### 【インフルエンザ】

第43週の報告数は1349人で、定点当たりの報告数は19.27となり、前週に続き注意報レベル基準値「10.0」を超えました。地区別でも、佐世保地区（48.55）、上五島地区（26.33）は警報レベル開始基準値「30.0」を、県北地区（22.25）、長崎地区（20.94）、県央地区（16.18）は注意報レベル基準値を上回っています。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。呼吸器、循環器等に慢性疾患を持つ方は、その病状が悪化することもあります。小さなお子さんの場合、熱性痙攣や気管支喘息を誘発することもあります。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第43週の報告数は166人で、前週より16人多く、定点当たりの報告数は3.77でした。地区別にみると県南地区（13.00）、県北地区（9.67）、西彼地区（8.50）は、警報レベル開始基準値「8.0」を超えています。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

【咽頭結膜熱】

第43週の報告数は127人で、前週より13人多く、定点当たりの報告数は2.89でした。地区別にみると西彼地区（11.50）、県央地区（4.14）、長崎地区（3.60）、対馬地区（1.00）は、警報レベル基準値「3.0」（終息基準値「1.0」）を超えていますので注意が必要です。

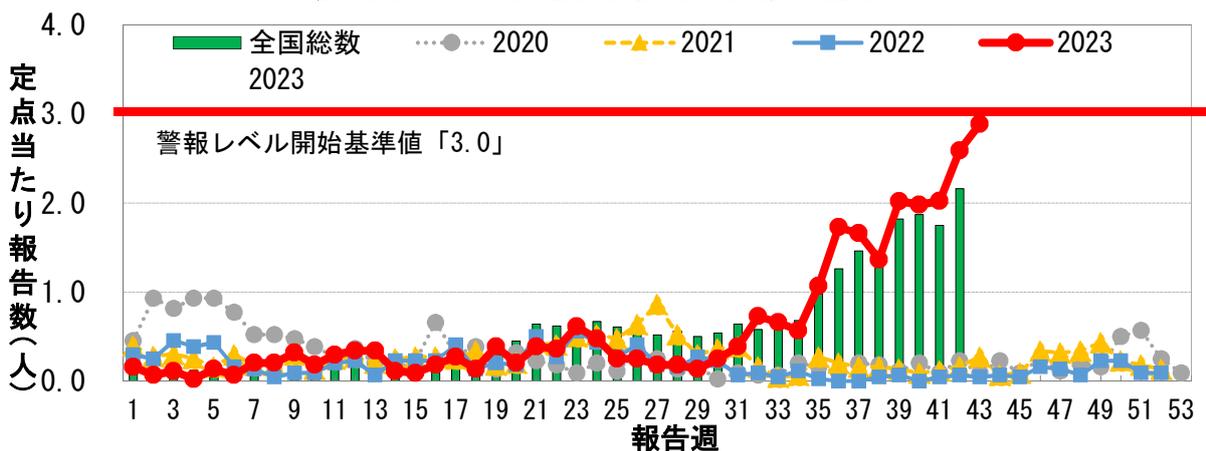
本疾患は、発熱・咽頭炎（咽頭発赤、咽頭痛）および結膜炎を主症状とする急性のウイルス感染症です。原因の多くはアデノウイルス3型ですが、4、7、11型なども原因となります。年間を通じて発生します。感染経路は、飛沫感染、手指を介した接触感染であり、夏季にプールの水を介した結膜への直接侵入により感染する場合もあるため、「プール熱」とも言われています。治療は対症療法となる為、感染予防が重要です。手洗い、うがいや手指消毒を励行しましょう。

★トピックス：咽頭結膜熱の患者数が増加しています

第43週の定点当たり報告数は、前週より増加し「2.89」でした。2023年は、過去3年の中で最大の報告数となっています。地区別にみると、西彼地区（11.50）、県央地区（4.14）、長崎地区（3.60）は、警報レベル開始基準値「3.0」を超えています。また、対馬地区（1.00）は第31週に「3.0」を超えて以降、終息基準値「1.0」を超えた状態が継続しています。

本疾患は、アデノウイルスによる感染症で、発熱・咽頭炎（咽頭発赤、咽頭痛）および結膜炎を主症状とします。主に夏季に流行が見られますが、年間を通じて発生します。感染経路は、飛沫感染、手指を介した接触感染であり、夏季にプールの水を介した結膜への直接侵入により感染する場合もあるため、「プール熱」とも言われています。治療は対症療法となる為、感染予防が重要です。手洗いや手指消毒を励行しましょう。

長崎県における咽頭結膜熱報告数の推移



★トピックス：11月は薬剤耐性対策推進月間です

「薬剤耐性」とは感染症の原因となる細菌に、抗菌薬・抗生物質が効かなくなることです。国は平成28年度から毎年11月を「薬剤耐性（AMR）対策推進月間」として、薬剤耐性に関する全国的な普及啓発活動を推進しています。

薬剤耐性をもつ細菌を増やさないために、抗菌薬は、医師の指示どおりに飲みましょう。他の人に処方されたもの、家に残っているものを自己判断で飲まないようにしましょう。

（参考）AMR臨床リファレンスセンター 薬剤耐性ページ（外部のページに移動します）  
<https://amr.ncgm.go.jp/>

☆トピックス：インフルエンザに注意しましょう

2023年第43週の定点当たりの報告数は、「19.27」で前週より増加し、2週続けて**注意報レベル基準値「10.0」**を超えました。第36週（9月4日から9月10日）より集計が開始された2023/2024シーズンにおいては、昨シーズンから流行の目安である「1.0」を超えた報告数が継続しており、9月に入ってから患者数が急激に増加しています。

地区別にみると、佐世保地区（48.55）、上五島地区（26.33）は、2週続けて**警報レベル**の報告数となっており、県北地区（22.25）、長崎地区（20.94）、県央地区（16.18）も**注意報レベル基準値**を超えています。

年代別にみると、10歳未満と10代で約85%を占めています。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。また、インフルエンザワクチンは発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、かかりつけ医と相談のうえ、ワクチンを接種しましょう。

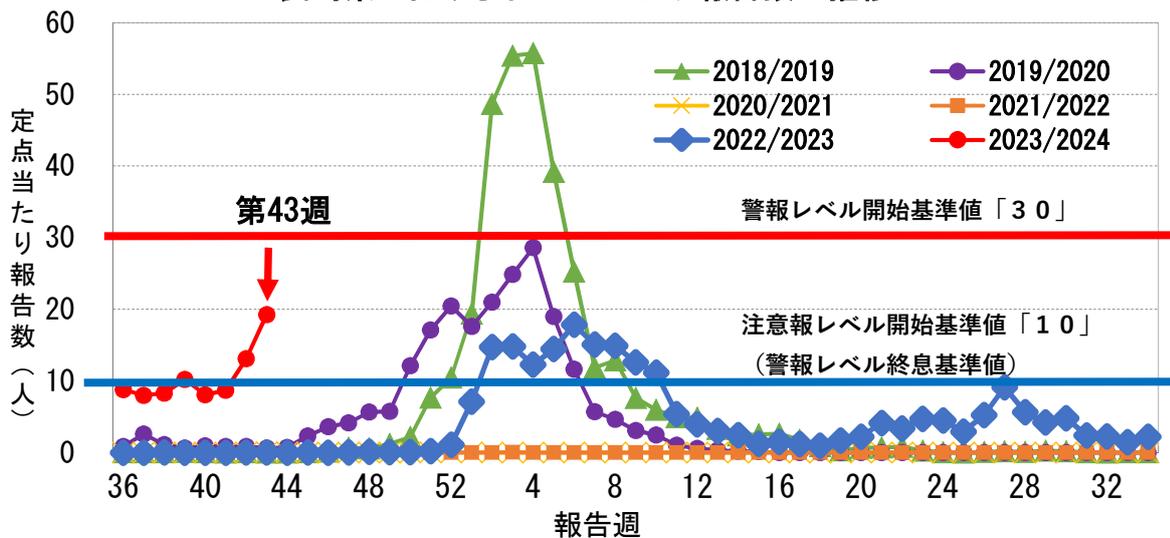
(参考)厚生労働省 インフルエンザ総合ページ(外部のページに移動します。)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuleenza/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuleenza/index.html)

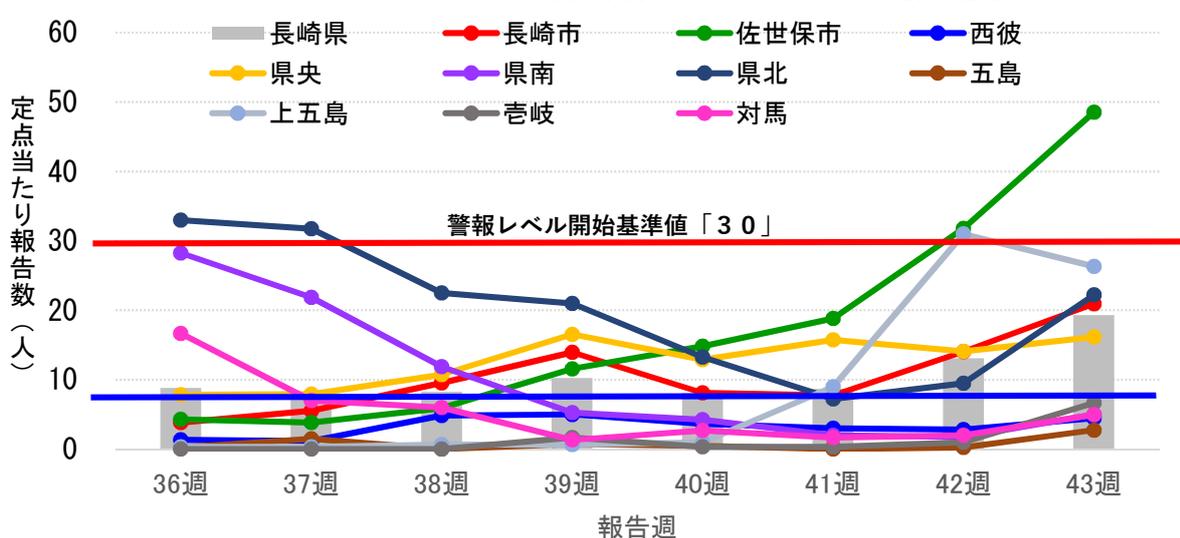
インフルエンザの年代別患者報告数

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
報告数(人)	641	501	15	70	65	18	23	13	3
報告割合(%)	47.5	37.1	1.1	5.2	4.8	1.3	1.7	1.0	0.2

長崎県におけるインフルエンザ報告数の推移



2023/2024シーズン 保健所別インフルエンザ報告数推移



☆新型コロナウイルス感染症の発生状況（2023年第43週：10月23日から10月29日）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2023年5月8日より、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における類型が定点把握対象の5類感染症に変更されました。

5月8日以降は、県内の人口等を勘案して選定された70医療機関（インフルエンザ/COVID-19定点）から、1週間（月～日曜）にCOVID-19と診断された患者数が週に1回報告されます。報告のあった県全体の患者数を集計し、本週報で毎週（原則木曜日）公表しています。

2023年第43週の新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は、前週の「2.44」より減少し、「1.99」でした。7週連続で減少しています。

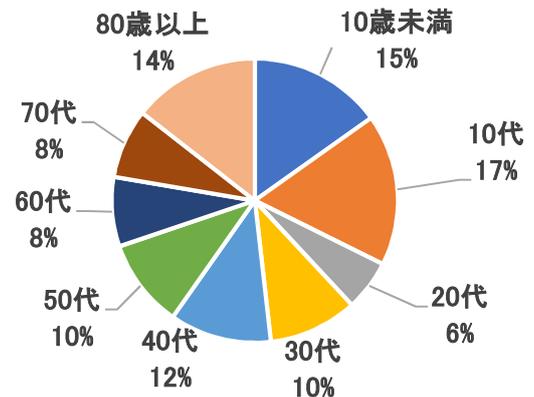
今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

	長崎県	長崎市	佐世保市	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	壱岐	対馬
報告数	139	30	24	11	20	13	6	2	11	7	15
定点数	70	17	11	6	11	8	4	4	3	3	3
定点当たり報告数	1.99	1.76	2.18	1.83	1.82	1.63	1.50	0.50	3.67	2.33	5.00

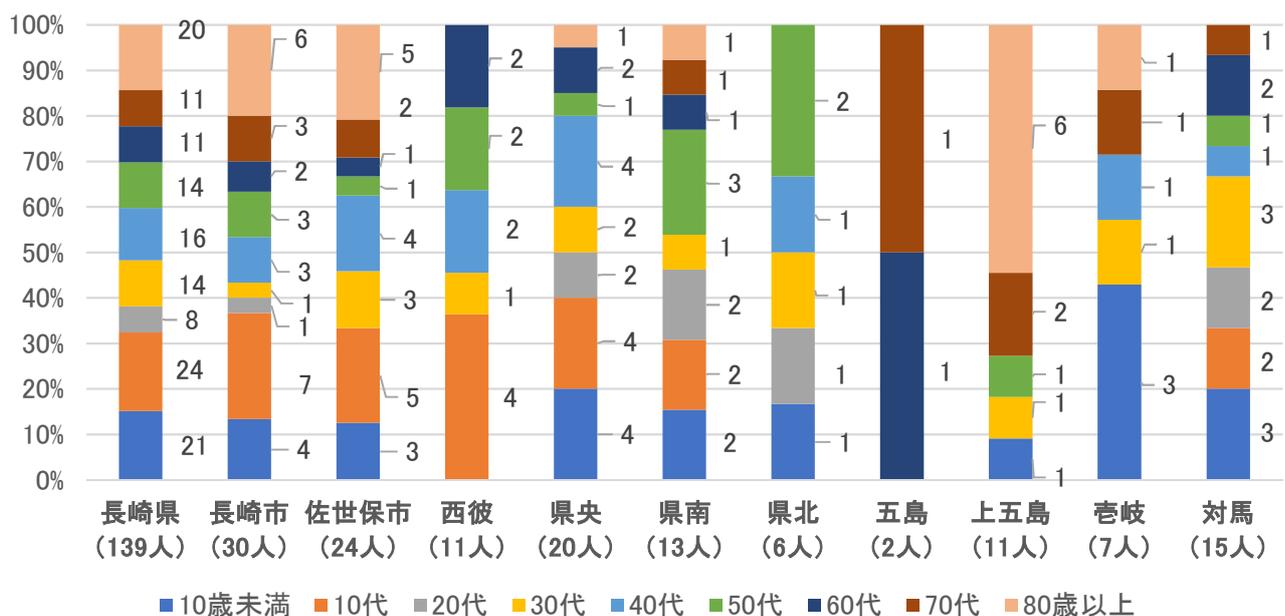
性別割合



年代別割合



保健所別年代別報告数



※年代別の報告数は、感染症発生動向調査における年齢区分の報告をもとに年代ごとに集計したものです。

◆全数届出の感染症

2類感染症： 結核 患者 男性（50代・1名、80代以上・1名） 女性（60代・1名、80代以上・1名）

3類感染症： 報告なし

4類感染症： デング熱 患者 男性（20代・1名）

レプトスピラ症 患者 男性（70代・1名）

5類感染症（全数把握対象）： ウイルス性肝炎 患者 男性（30代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第38~43週、9/18~10/29)

疾患名	定点当たり患者数					
	38週	39週	40週	41週	42週	43週
	9/18~	9/25~	10/2~	10/9~	10/16~	10/23~
インフルエンザ	8.27	10.23	8.09	8.69	13.09	19.27
新型コロナウイルス感染症	12.29	9.46	4.73	3.30	2.44	1.99
RSウイルス感染症	0.61	0.34	0.34	0.18	0.23	0.23
咽頭結膜熱	1.36	2.02	1.98	2.02	2.59	2.89
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	1.73	2.30	2.09	1.70	3.41	3.77
感染性胃腸炎	1.45	2.02	1.82	1.32	1.61	2.14
水痘	0.05	0.11	0.05	0.09	0.07	0.07
手足口病	2.32	2.39	1.23	1.70	1.70	1.80
伝染性紅斑（リンゴ病）			0.05			
突発性発しん	0.25	0.30	0.39	0.32	0.30	0.30
ヘルパンギーナ	0.68	0.57	0.59	0.32	0.32	0.45
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		0.05	0.07		0.05	0.02
急性出血性結膜炎	0.13		0.13	0.13	0.13	0.25
流行性角結膜炎	0.75	0.50	0.88	0.50	0.88	0.50
細菌性髄膜炎		0.08				0.08
無菌性髄膜炎		0.08				
マイコプラズマ肺炎				0.08		
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）					0.08	

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第43週、10/23~10/29) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	19.27	48.55	20.94	6.67	4.50	16.18	5.00	22.25	2.75	26.33	5.00
新型コロナウイルス感染症	1.99	2.18	1.76	2.33	1.83	1.82	1.63	1.50	0.50	3.67	5.00
RSウイルス感染症	0.23		0.10		0.50			2.00			0.50
咽頭結膜熱	2.89	1.33	3.60		11.50	4.14	0.80		0.67		1.00
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	3.77	2.33	0.80		8.50	1.57	13.00	9.67			2.50
感染性胃腸炎	2.14	1.83	4.60		3.00	2.71	0.40	1.33			
水痘	0.07	0.33				0.14					
手足口病	1.80	1.33	1.00		2.00	5.86	0.40	3.00	0.33		
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.30	0.50	0.20		0.50	0.29	0.60	0.33			
ヘルパンギーナ	0.45		0.90		0.50	0.29	1.00	0.33	0.33		
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.02						0.20				
急性出血性結膜炎	0.25		0.33				1.00				
流行性角結膜炎	0.50		0.67				2.00				
細菌性髄膜炎	0.08						1.00				
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎											
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											